岡垣の風土と歴史を愛して！

―執筆を終えるに当たって―

岡垣歴史文化研究会　石井　邦一

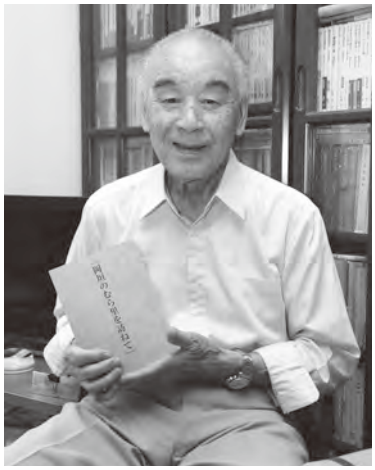
否応なしに齢を重ねて、88歳の米寿を迎えた。元気なようでも「老いては麒麟も駑馬に劣る」で、年齢には勝てず広報おかがきの執筆もこれまでと、筆を置くことにした。

かえりみると、それまで旧戸畑市に住んでいた私が、この岡垣の地に移住したのが1968年（昭和43年）11月である。以来、岡垣町の住民として、この地に過ごして今日に至るまで、はや50年余となる。

人生の半分以上をこの地で生きた以上、岡垣は私にとってほかの何者にも替え難い故郷である。しかも住んでいる場所も、かつては標高40～50メートルの丘陵団地だった雑木山を、住宅地として開発した新興団地である。それだけに下の平地から登り降りしなければならない不便はあるが、それだけ空気が良いのが取り得だろう。

しかも、この岡垣は、何よりも私にとって第二の故郷である。

それまで過ごした旧戸畑市からこの地を選んだのは、宗像郡境に連なる孔大寺山群と、響灘の海に面した豊かな自然、加えて農・漁業が営まれる素朴な村むらの存在に惹かれたからである。それだけに、岡垣にどんな歴史や伝統が伝えられているのか、興味が沸き尽きることがなかった。



長年執筆された石井邦一さん。平成28年4月には自身の研究の成果をまとめた「岡垣のむら里を訪ねて」を出版

そこで岡垣の歴史研究をする仲間づくりをと、北九州市役所勤めの先輩だった内浦の長畑菊丸さん（1980年8月没）に相談し、岡垣歴史文化研究会を1968年（昭和43年）11月に発足させた。

この動きと繋がる所産が、岡垣町の広報おかがきに町の歴史を綴る「新岡垣風土記」の連載だった。歴史文化研究会の仲間3人が交替で書き始めたのは、1985年（昭和60年）11月からである。この連載も、これまですでに32年間に及んだ。

私の年齢を考えても、すでに88歳ともなると、気分だけは若やいでも身体の衰えは争えない。現役引退の潮時であろう。名残惜しいが、後進にバトンタッチして道を譲ることにしたい。

ところで、岡垣という町名は歴史的にも由緒あるものである。それは、かつてこの地が「日本書紀」にある「岡縣主の祖熊鰐」の「岡」と、「倭名類聚鈔」（931～938）にある遠賀六郷の、垣生・垣前・山鹿・宗像・内浦・木夜から、垣前郷の「垣」を取り「岡垣」としたものである。その歴史的な変遷と流れは、途方もなく広く深い。

これからも岡垣歴史文化研究会が、町の歴史の調査と探究にさらなる道を拓き、この町の歴史が岡垣の明日を支えるインテリジェンス（英知）の導入ともなるよう、心から期待している。

これから執筆します

石田　健次

岡垣の歴史を知る手掛かりとして「岡垣町史」や「新岡垣風土記」などがあります。この中で広報おかがきに連載中の「新岡垣風土記」はこれまでに382回にわたり岡垣の歴史を町民の皆さんに提供してきました。この間、さまざまなテーマが取り上げられ執筆されてきました。

地域交流センター内の文化財展示・資料室には、町史編集の際に収集された貴重な資料が残されています。今回「新岡垣風土記」を執筆するに当たっては、これらの資料を掘り起こして、岡垣の歴史を綴っていくことができればと思っています。